

登録10年の取り組み報告①

10年間の活動をユネスコに報告

8月に定期報告

今年7月12日に、綾ユネスコエコパークは登録10年を迎えます。この節目には、これまでの取組内容を定期報告書にまとめ、ユネスコ本部へ提出する必要があります。自治体主導でユネスコエコパーク登録申請から定期報告までを行うのは、国内では今回が初めての事例です。

定期報告書は原則的に、英語・フランス語・スペイン語のいずれかの言語を使い決まった様式で作成しなければなりません。綾ユネスコエコパークの定期報告書は英語で提出する予定で、今年8月までに完成させた後、9月に日本ユネスコ

国内委員会（事務局／文部科学省）を通してユネスコ本部に提出することになっています。令和5年3月～5月にはユネスコBR国際諮問委員会による審査が行われ、同年5月～7月に開催予定のユネスコMAB計画国際調整理事会によって最終的な審議が行われる予定です。この最後の調整理事会の審議結果をもって、綾ユネスコエコパークの次の10年

がスタートするのです。

取り組み内容や調査結果をリスト化

現在は、日本語での報告書が完成しつつあり、英訳を進めているところです。

定期報告は「要約」「定期報

告書」「附属書の3部構成になっています。「要約」には、申請時にユネスコから勧告があった場合の対応や、人口・面積・予算などの基本情報を記載しています。綾ユネスコエコパークの場合は、申請時にユネスコから核心地域を拡張する努力が求められたため、核心地域の拡張に向けた取り組み内容や各ゾーンの面積の変更について記載しました。

「定期報告書」は、分野ごとに細かい設問が設けられています。綾ユネスコエコパークに10年間でどのような変化があり、どのように対処してきたのか、また多様な主体と連携した取り組みが行われているのかなど、ひとつひとつの設問に回答していく必要があります。中には、具体的な数字を指標として示しながら説明しなければならぬ箇所があり、綾ユネスコエコパークの場合は、令和3年に策定した第八次綾町総合長

基本目標	施策(分野)	施策項目	達成度指標	指標	目標の方向	現状値(2014年度)	目標値(2019年度)
自然環境の保全・向上	2-1 自然環境の保全・向上	4項目を対象	達成度指標	緑地管理計画の策定率(%)	→	44(99.2)	49
			達成度指標	緑地の認知度(理解度)(%)	→	34(1.8)	49
			達成度指標	自然環境保全施設での再生可能エネルギーの導入率(%)	→	0.07	20
			達成度指標	環境学習に対する職員・教員の研修(回数)	→	0	2
	2-2 自然環境の保全・向上	3項目を対象	達成度指標	ゴミ処理・リサイクルの定率(%)	→	96.3	75
			達成度指標	自然環境の保全(種数)	→	36	16
			達成度指標	自然環境の保全(種数)	→	2,027	1,999
			達成度指標	自然環境の保全(種数)	→	775	900
	2-3 自然環境の保全・向上	2項目を対象	達成度指標	自然環境の保全(種数)	→	74.8	75
			達成度指標	自然環境の保全(種数)	→	30.8	31
			達成度指標	自然環境の保全(種数)	→	92	92
			達成度指標	自然環境の保全(種数)	→	95	100
2-4 自然環境の保全・向上	4項目を対象	達成度指標	自然環境の保全(種数)	→	62	96	
		達成度指標	自然環境の保全(種数)	→	67.9	75	
		達成度指標	自然環境の保全(種数)	→	0	2	
		達成度指標	自然環境の保全(種数)	→	165	240	
2-5 自然環境の保全・向上	3項目を対象	達成度指標	自然環境の保全(種数)	→	79.8	76	
		達成度指標	自然環境の保全(種数)	→	39.3	36	
2-6 自然環境の保全・向上	3項目を対象	達成度指標	自然環境の保全(種数)	→	0	2	
		達成度指標	自然環境の保全(種数)	→	-	100	

綾町で実施されている施策や戦略の実効性評価に関する指標(生物多様性保全機能分野)

期計画の指標を基に説明を記載しています。「附属書」には、最新のエリアマップのほか調査で明らかになった重要な生物種リストや蓄積された研究論文・文献のリスト、実施された調査研究テーマの一覧などを添付しています。

この1年間、本誌の連載で綾

ユネスコエコパークとしての10年間の取り組みや変化について紹介してきました。多くの住民の皆さんもエコパークを推進する活動に参加されており、この10年で意識や取り組みに変化があったのではないのでしょうか。

第2のステージとなる次の10年は、これまでの調査結果を持続可能なまちづくりに生かすことや、地域住民主体の多様な社会・経済活動を盛り上げていくこと、地球環境保全と国際社会に貢献するための踏み込んだ温暖化防止対策(脱炭素化)を強化していきたいと考えています。

附属書に記載される国際的に希少な生物



綾ユネスコエコパーク推進室・綾ユネスコエコパークセンター

☎77-3482 URL <https://ayabrcenter.jp>

※エコパークセンターは毎週日・月曜日および祝日休館
感染症の影響による休館等の情報はホームページで随時更新します

column

ヤマアカガエル

山の中を歩いていると出会うことの多いカエルです。ニホンアカガエルに似ていますが、背中中の線が斜めに入ることで見分けられます。

暖かい季節は主に林内で生活し、昆虫やミミズ、ナメクジなどの小動物をエサにしています。冬は泥の中などで冬眠しますが、水温が6℃程度になると2月～5月ごろにかけて動き出し、丘陵地の田んぼや明るい水たまりにゼリー状の卵を産卵します。そして産卵後は再び冬眠します。

4センチ程度のオスに比べてメスは8センチ程度と大きく「写真」は、産卵時期にはぼつちやりしています。春を告げる本種の産卵を観察できたら、いよいよ春も本番です。



ムラの肖像

山間部の集落には、今も日常的にサルやシカ、イノシシなどの野生動物が姿を現します。田畑が荒らされ農作物の被害が出るのが頻繁にあるので、農家では電気柵を設けるなどの対策を取っています。竹野地区で撮られたこの写真のように、野生動物が人に慣れることはまれ。一般的には、サルは人を見ると歯をむいて威嚇したりすることが多いですが、このサルは竹野美代子さんの背中に乗ったり毛づくろいをしようとしていたりして甘えていたそう。「タケノコを脇に抱えて歩いていた」などユーモラスな姿で住民を驚かせることもあった野生のサルたちなのでした。



※令和2年から町内の小規模集落で行っている「綾の肖像プロジェクト」で集めた写真の中から紹介します